

人・エネルギー研究所

ただいま構想中！

「ご縁の杜」代表 深澤里奈子が語る。

「人」×「エネルギー」

とは何ですか？



深澤 里奈子 ふかざわ りなこ
2000年に26歳で旅館の女将を引き継ぎ3代目として事業継承。2008年より理念経営を中心軸としたスタッフ教育、教育事業も同時に行い大学講師を務める。2016年、心理学、脳科学の教育事業に加え食養生の宿「湯河原リトリート」へシフトする。人の生き方の気づき、創造の場を提案している。

■気づくことから始まる

宿を継いで一番最初に始めたことはスタッフの教育。教育といっても教える、付け加えるといった足し算の教育ではなく、その人の本来の力が発揮できるような身につけてしまった否定の感情や思いこみの鎧をとる引き算の教育を実践しました。つまり「本来の自分へと還ることで、内在化された能力が活性化されてくる」という変化です。その効果は如実で、スタッフの意識がどんどん変化していきました。お客様にもその体験をしていって欲しいと思い二〇一一年から「人生に変化が起こる宿」とビジョンを掲げ、人の生き方の気づきの場を創って来ました。人は本来の姿に還ると、身の回りで毎瞬起こっている奇跡のような出逢いや出来事に気づき始めます。感謝や感動が湧くようになり自然と望むことへと想いや行動が進み、人生が豊かになっていくことを実感する

のです。

私は多くの人を見てきた中で、人はエネルギー体だと感じています。エネルギーとは、カロリーや燃料のことでなく「人から何となく発せられてるもの」と捉えています。軽やかな状態だと気づきが起こりやすくチャンスに恵まれます。心が閉じたり恐れや焦りがある状態だと上手くいかないことが多いですね。その何となく発せられるものとはいったい何なのか、それはどうのようにしたらより望み通りに発せられるのか、このことに大変興味をもち、人のエネルギーの探求をするようになりました。

■エネルギーの流れを感じる

自分や人から発せられるもの(以下エネルギーと称す)を意図していくと、エネルギーが高いとか低いとかを感じられるようになります。また人同士の中でエネルギーを高め合ったり、奪い合ったりしている流れにも

気づきます。そんな中で、「自分はどんなエネルギーで在りたいのか」と人に聞いてみると、ほとんどの人が「いいエネルギーでいたい」とか、「エネルギーを高めていきたい」と答えるんですね。もちろん私もですが(笑)。

では「エネルギーの高め方」にはどんな方法があるのかと、いろいろ研究するわけですが、人によって望む方向も高め方も水準も違う。それぞれの感度により方法がみな異なるのです。だからまずは私自身が人体実験(笑)しながら体験し、その実践と体感をお伝えしていきます。ご縁の杜では、講演やセミナー、ワークショップ、リトリート等、様々な切り口を通して、その人にとって一番ピン！と来る方法を体験して頂けたらとイベントを開催しています。

※エネルギーの高める方法については、連続インタビューにて様々な切り口でお伝えしていきます！

■エネルギーの活力が上がる と運氣も上がる

探求を自ら実践していくうちに、自身の人生が大きく好転していくのを実感しています。二十六才頃まで超マイナス思考だった私が、そんなことを考え始めて十六年目。その時には想像できないくらい今は「自分らしき満載」で生きさせてもらっています。

本来の自分に還ると、本質的な方向へと進んでいくんです。もちろん苦労がないわけではなく、むしろ大変なお役目が増えてる感じがしますが、ここがポイントだと思えます。挑戦せず

に楽に生きることも楽しいでしょうが、私が思うに、「本来の自分に還る」と、「本来のお役目」この地球に生まれてきた意味を現実化する現象」が起こります。それは一見、苦難に見えたりもしますが、エネルギーの活力が高いと、目の前に起こる現象の捉え方も変

■場のエネルギー

わってきます。捉え方次第で、自然にひずみなく乗り越えちゃうので、気づくとさらにエネルギーが高まっていたり感謝し合っていたりして、いろいろあったけどこれがあって良かったね、と全ての事柄を良きことに感じる力がつきます。幸せ磁石になるには、軽やかに且つ芯は強く、起きる物事を乗り越える楽しさと自分と人にも優しいこと♪意外と難しいのですが、やり続けると確実に望む方向へと運氣も流れていきます。

個人個人のエネルギーが高まってくると、その人達がいる場や通う場のエネルギーも高まってきます。エネルギーの高い場になるとそこに行くだけで何だか心地よくなったり、ご縁が繋がったり、ミラクルが起こったり、まさに人生に変化が起こる場になっていくのです。そこが組織など

の集合体であれば、お互いの信頼度が高まったり、経営的にはフロー状態、スポーツ的にはゾーンに入る、などと表現される状態になる率が高まります。古来の日本では神社がそういう場の一つでした。ある神主さんの言葉↓『自ら意図を持って多くの者が通うその道はエネルギーの集合体となり「光の架け橋」を場と場に創り上げその場を広げていく』。

エネルギー磁場を創り上げると、そこを訪れる多くの人のエネルギーも自然と高まっていく。それならば、その磁場としての存在になろうと！そうして二〇一六年より「ご縁」の杜として変容を遂げてきました。

そのような流れにより、さらなるエネルギーの研究と、人がそれを活力として高めていける方法を伝えていくため『人・エネルギー研究所』を構想しています。(ご縁の杜代表 深澤里奈子)